

『彼岸会』御案内

当山「順正寺」では、壇信徒の総霊位をまつり、仏恩報謝の念いをこめて、左記の通り「春季彼岸会法要」を厳修致します。

公私共御多忙とは存じますが、万障繰合せの上御参詣下さいます様、お願い致します。

記

二月二十三日（月）

「結願の日」

午後一時より

法話 法話 おととき

以上

◎御自宅で読経を御希望の方はお電話下さい。

彼岸入り 三月 十七日（火）

お中日 三月 二十日（金） 春分の日

結願 三月二十三日（月）

◎寺にて読経を御希望の方（寺へ御遺骨をお預けの方）は、二十日（春分の日）・二十二日（日曜日）にお参り下さい。読経供養致します。

住職

◆「彼岸」の意義について。

「彼岸」とは、日本固有の風習であります。この風習は、古来より伝わり、今日まで生き続けてきたものであり、本来は「至彼岸」のこと、つまり、「彼岸」に至る「こと」を言います。ここでいう「彼岸」とは、極楽浄土・彌陀世界のことであり、そこまで辿り着くことをいうわけです。ただし、そこまでには、難渡海（渡り難き海）があり、自力にて辿り着けるものではなく、その海を越え、全ての者を岸まで導くのが「彌陀の本願」なのです。例えば、「彌陀の本願」とは、「難渡海を渡る大船」といえるものです。ゆえに、彼岸とは亡き人の徳をしのびつつ、その誘いにより「彼岸」を慕い、彌陀の大船に乗じて救われていかんと発心する場であります。「彼岸」に至るまで、末法濁世に生きる我々には多くの苦しみがあります。その世の中で生をまっとうしていくことを願っているのが、仏様であり、阿彌陀様であります。そこに、真に気付いていく機会として、「彼岸」という一つの風習が今日まで根付いてきたのであります。

副住職の独り言・・・2

江口 貫 正

紙面、一年振りの登場です。皆様お変わり有りませんか。

『さて、御存知の通り、先月より当寺では改修・増築工事が始っております。工事中は何かと御迷惑をお掛けして、まことに申し訳ありません。また皆様にはご協力頂いておりますこと、深く感謝しております。』

一年というのも経ってしまふと早いもので、去年の今頃は、やっと湾岸戦争も終結し、暮れにはソヴィエト連邦が崩壊し、また国内でも政治絡みの汚職が、バブルの崩壊がと、まあ、ニュース見ても付いて行くのがやっと。変わらないのは私の体重だけ……というわけで、去年からほとんど私は痩せていません。

しかし御安心下さい。去年の暮れから、重い腰を、いや、重い身体を持ち上げて、筋トレとエアロビクスに励んでおります。まあ半年も経てば何とかなるでしょう。何故こんなに「痩せる」事に執着してしまうのか。『服のサイズが合わない、足が痺れる、デブだ、痛風だ、糖尿に成り掛けた、冬なのに汗を掻き乍ら歩いている』等々、色々な問題があるわけでありませう。まあ一つの変身願望であります・・・と、強引に変身願望の話に持ってゆくわけです。

最近の変身する商売が大流行で、例えばエステティック。もうすぐ一兆円産業に成るとか成らんとか。私に通ってるスポーツジムなんてのもそういう要素が有ってきましたようです。で、外側の器が固まってくると、次は内側だっ！とばかり、メンタルクリニックだ、宗教だ。心も身体もきれいになることは結構な事です。んがっしかし、男も三十路を過ぎチョンガーだと根性が捻くれてくるのか、どうも「本当かよ」と思うことが多い今日この頃な訳です。

では、どの辺が「本当かよ」かと言いますと、そんなに簡単に人間は変わるのかね、という所です。まあ、外側に関していえば変わります。化粧なんて呼んで字の如し、化けるのですから。ところが内面となるとそれは問屋が卸さない。大体、何したから、こうしたから、銭払ったから、呪文唱えたから、こんなんで人の内面が変わるのなら、古来から哲学なんていらぬ、裁判所だって、刑務所だって、医者だって、近所の物知りの老人だって、学校だっていらぬのではないでしょう。か。建築の方では、『東京スピード』という言葉があるみたいですが、やはり「迅さ」の時代なのでしょう。か、とても安易な物が好まれるわけです。簡単である事はとても大切な事です。しかし、例えば電化製品。操作は簡単、そのくせ、かなり複雑な事もやってくれますが、そこに落とし穴、一発壊れると何処を

どう直したら良いか素人にはさっぱり解らん、表の簡単さと裏腹には複雑の極みなわけです。修理代も、というより部品の交換代ですな、これも高いので結局新品を買うことになる。これが安易の代償かな？まあでも、これくらいならたかが識れてます。『人の心』、これはただじゃ済まない。人間という字を見ると人の間と、つまり人は間的存在である。他者との関係の中に生きてる者です。いい加減なことをすると周りにもその影響を及ぼすという事です。ああ成ったら良いなあ、こう成ったら良いなあ、これは切実な希望であるかも知れません。しかし現状を忘れてはいけないのではないのでしょうか。変わらない現実、これをはっきり認める前に別の自分を夢見る事、これは逃避といえます。それも殆ど逃げ切れませんが、自分を変えようと思つたとき、出来れば、何故自分を変えようと思つたのか考えて下さい。そこには自分で認めたくない『自分』が居ます。そいつも自分なわけです。それを切り離す事は出来ない。どうにもならない自分というものを受け止める。『♪それが一番大事♪』という歌もあります。

ここ数年、水子供養とか、心霊占いだとかはやって居ます。これもひどいですね。水子って言葉がどういう成り立ちか深く識りませんが、まあ娑婆世界に命の縁の無かった赤ん坊の事だとすると、これには色々な事情があるわけで、母体が弱かったり、その子自身が

弱かったり、女性の社会進出の問題、モラルの低下等でも、だからといって自分の周りで起きた不都合を、その縁のなかった子に原因を押し付ける、そりゃ無いでしょう。先祖もそうです。肉親ですよ。自分の子、孫の不幸を願う肉親でそんなに居ますか？もっともそういう、目に見えない、はっきりしないもので人をビビらせて商売してる奴がいるわけで、これは古来からの宗教のセールス方法の一つであります。先祖が祟ると恐いので法事をするのか、水子が祟ると恐いのでお経をあげるのか、また、身にふりかかった不都合を取り除くために念佛を唱えるのか、今一度考え直す時ではないでしょうか。幸いな事に、私が御縁をいただいたお宅では、まずそういう事を聴きませんし、また、「念仏は呪文じゃありませんよ。感謝の言葉ですよ。」という話にも頷いて下さる方が多いので心配はしていません。

色々な事を思ってしまう『自分』。仏教では、貪る・欲する・嗔恚(いかる)・愚痴と言います。そういうふうなものにならない『自分』を認め、そこで開き直ってしまうのではなく、そこから立ち上がっていくことを往生と言います。煩惱を持ったまま、迷いを身に付けたまま、力強く生きて行きましょう。

ちなみに、私が友人の間で、『ウォーキング煩惱』
・・・『歩く行き当たりばったり』と呼ばれていることは、ここだけの話です。

投稿コーナー！

※やすくにの 献花に急ぐ 冬の朝

※電線の すずめふくらむ 冬の朝

※春の日に 蕾ふくらむ 庭の梅

※かなしきや 昔思い出す 戦争や

※初孫の 成人祝う さわやか朝

※裕哉をば きたい待ちしに さみしきかな

※あきらめし じゅん白椿 咲きにけり

瓜生 一枝

神武天皇の父神（ウガヤフキアエズのミコト）

の陵にて・・・

※南隅にゆかしく立てる吾平山上陵

ひそけきけはい 神はまします

※南隅の陵にしまる神のかげ

社殿のみまえに ふるえたたずむ

（南隅↓大隅の国、現在の鹿児島県）

平山 昌彦

これからも、種々な投稿を待っています。

現在、進行中の当寺増改築にあたり、多くの御迷惑をお掛けしております。

3月6日現在、『138軒』の皆様にご喜捨いただいております。ここに御報告致します。

順正寺一同、感謝の念厚く、この場を借りまして御礼申し上げます。住職 江口貫照

素直に生きたい。明日から？いや、今すぐに。

理由が有るから生きる

理由が有るから死ぬ

死にも理由を付ける

生が有るから死が有り

死が有るから生が有る

命そのものが生死の理由

渡された命のタスキを

次々と渡し続ける

寺報を発行するようになり一年が過ぎました。この一年で変わったこと。ワープロの機会自体が持っている機能を少しづつでも覚えた事。変わらないう事、ちっとも早く文字を打ち込めない事。漢字に弱い私、少しは覚ええました。字は一向に上手くなりません。プラス・マイナス・ゼロ。合掌

☎1777東京都練馬区石神井町3の17の4

03(3996)2064

順正寺